

提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部 会 名	中学校 美術部会

1 提案テーマ 『つなげる美術』人と物・生活と美術のつながり

2 単元(題材) 食べ物のささやき ～ラベルデザイン～

3 学年 第2学年

4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

② 生活の中の美術の働きを理解する学習や、自分の気持ちや伝えたい内容などを形や色、材料などを生かして他者や社会に向けて表現する題材開発及び指導と評価の工夫。

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 [第2学年及び第3学年] 2 内容

A表現(2)イ:伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

A表現(3)イ:材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

B鑑賞(1)ア:造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

6 実践に向けての課題意識

三年間の授業の中で、技術だけでなく子どもたちが成長をしていく上で必要な「生きる力」を身につけてほしいと願って授業の実践をしている。しかし、その力は目には見えにくく、生徒は「なぜ今この勉強をしているのか」と疑問に思うことがある。教師がねらいをもって授業をし、そのねらいを明確に示していくことで生徒の疑問に答え、それが生徒の意欲を引き出すことにつながると思う。だからこそ授業では「生徒につけたい力」として、見る力、感じる力、思いやる力、伝える力など、内面的な成長につながる力を何度も伝えるようにした。「生徒につけたい力」に応じた課題を設定し、一つ一つ段階的に作品制作を進め、三年間を見通した計画的な授業づくりを心がけている。

今回の題材は、時代や生徒の実態に沿った授業にすることで、普段の生活と美術は繋がっていることを強調した。また、作品づくりに対する興味を高める工夫をした。

7 実践の概要

○年間指導計画について

1年次にレタリングや絵文字、配色などの基礎を身につけ、2年次では生活と密着したデザインに興味を持ち、自分の意図を表現できる力がつくように年間の計画を立てた。

○指導の工夫について

- ・グループ活動を取り入れることで言語活動の充実を図り、お互いの学び合いを意識した活動ができるようにした。
- ・生徒の発想や感じ取る力をのばすために、市販の商品を鑑賞した。また、鑑賞活動からラベルの役割についての学習がスムーズにできるようにし、そこから感じたことを自己の作品制作に生かせるようにした。

○言語活動の充実について

完成した作品からつくり手の意図などを感じ取り、意見を交換することで、商品のコンセプトが意図したとおりに伝わったかどうかを生徒自身にフィードバックさせた。

8 成果と課題

○成果 1年次の基礎学習の経験を生かすことで発展的な取組ができた。また、市販の商品の鑑賞を導入にすることで「伝える」という目的を意識しながら、見通しをもって構想を練ることができた。

○課題 商品をイメージできない生徒、アイデアが浮かばない生徒、情報の絞り込みができない生徒等へ、個別に対応する手立ての工夫が必要であった。

9 予想される協議の柱

- 発想・構想の能力を引き出す工夫
- 学習意欲を高める指導と手立て